

農作物技術情報 号外 大雨対策

発行日 令和8年9月4日

発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部

編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用
二次元コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>

9月7日から8日にかけて、沿岸北部及び沿岸南部を中心に、大雨となる恐れがあります。
今後の気象情報に注意し、農作物被害の発生を防止するための対策を適切に行いましょう。

- ◆人命第一の観点から、ほ場の見回り等については、大雨が収まるまでは行わないでください。また、大雨等が収まった後の見回りにおいても、増水した水路その他の危険な場所には近づかず、足下等、ほ場周辺の安全に十分に注意し、転落、滑落事故に遭わないよう慎重に行ってください。
- ◆降雨後は、ほ場からの速やかな排水を最優先に取り組んでください。

水 稲

排水路等の点検整備と冠水後のほ場管理を万全に！

◎ 事前対策

浸水や冠水に備え、排水口・排水路を点検し、詰まりの原因となるゴミ類の除去に努めます。

◎ 事後対策

- (1) 冠水した場合は、葉が少しでも早く水面に出るよう、すみやかな排水に努めます。
- (2) ほ場の排水口・排水路にゴミなどが詰まった場合は、安全な立入りが可能となったことを確認した後、早めに排水設備を点検し、機能復旧に努めます。
- (3) ほ場内にある流木や瓦礫・土砂などの漂着物は、機械収穫などの作業に支障をきたすため、退水後、できるだけ速やかに取り除きます。ただし、状況によっては工事等が必要な場合があるため、無理な作業は行わず、関係機関に相談したうえで対応します。

大 豆

排水対策と病害防除を十分に！

◎ 事前対策

ほ場表面の排水を効果的に行うため、周囲溝や排水口などの排水施設の点検・補修をします。

◎ 事後対策

- (1) ほ場が浸水、あるいは冠水した場合は、一刻も早く排水する必要があります。ほ場内や排水口のゴミ等を除去して、土壌表面水の速やかな排水に努めてください。
- (2) 倒伏した株は、隣接する株どうしで支えあうようにするなどにより、地面に接しないよう持ち上げておきます。
- (3) 大雨の後には、一般的に病害が発生しやすくなりますので、必要に応じて防除を行います。

野菜

排水対策を行い、草勢の早期回復を！

◎ 事前対策

【共通】

大雨による浸入水を防止するため、ほ場周囲に排水溝を設置します

◎ 事後対策

【露地栽培】

(1) 排水対策等

ほ場にたまった水はただちに排水します。排水後、ほ場作業が可能になったら、①マルチ穴を広げ畝の中の水分を乾かす、②畝間の中耕を行う等の対策を実施し、土壌中に空気を送って根の伸長を促進します。

(2) 殺菌剤散布、葉面散布

大雨の後は、病害が発生しやすくなっていますので、品目ごとの防除暦等に従って殺菌剤を散布し、病害の拡大を防ぎます。

茎葉に泥土が付着している場合は、動力噴霧機で水をかけ洗い流した後、殺菌剤を散布します。

草勢が低下した場合は、必要に応じて液肥を薄い倍率で施用または葉面散布し、草勢回復を図ります。

(3) 整枝、摘葉、摘果

果菜類では、傷んだ茎葉や果実は摘除して草勢回復を図ります。

【施設栽培】

(1) 排水対策等

ハウス内に水が浸入した場合はただちに排水します。排水後、ほ場作業が可能になったら、マルチ穴を広げ畝の中の水分を乾かす等の対策を実施し、土壌中に空気を送って根の伸長を促進します。

(2) 殺菌剤散布、葉面散布

ハウスの閉め切りによっても加湿が助長されるので、換気を行い、湿度を下げます。

殺菌剤の散布は、品目ごとの防除暦等に従って行い、病害の拡大を防ぎます。

茎葉に泥土が付着している場合は、動力噴霧機で水をかけて洗い流した後、殺菌剤を散布します。

草勢が低下した場合は、必要に応じて液肥を薄い濃度で施用または葉面散布し、草勢回復を図ります。

花き

排水対策と倒伏対策を十分に！

◎ 事前対策

(1) 収穫期を迎えているほ場では、開花状況にあわせて早めに収穫を終えます。

(2) ほ場外からの水の侵入を防止するため、用水路の点検を行い、ゴミの除去や壊れた箇所への補修を行います。また、増水によっていつも水が溢れる場所は、土のう等（肥料袋に土を入れたもので代用可能）で補強します。

(3) 水のたまりやすい場所は、速やかに排水できるよう事前に排水溝を設けておきます。併せて、排水路を点検し、上述した用水路と同様に対策を講じます。

◎ 事後対策

(1) ほ場の排水

ほ場にたまった水は、**速やかに排水**します。特にキク類では、萎ちょう症状（水焼け）が発生しやすくなるので、長時間滞水しないよう努めます。

(2) 病害対策

ほ場の冠水や多湿、茎葉の損傷、泥の茎葉への跳ね上がりにより、病害が発生しやすくなります。品目ごとに農薬の使用基準や各地域の**防除暦**などに従って殺菌剤を散布します。

薬剤散布する際は、株に付着した泥を洗い落とすため、**動力噴霧機の圧力を高め**にして十分量を散布します。併せて、**施設栽培では換気を徹底**し、施設内の湿度の低下を図ります。

(3) 被害株及び茎葉の除去

出荷不能となった株や折損した茎葉は、**ほ場外に持ち出して処分**します。

果 樹

排水対策により被害の軽減を！

◎ 事前対策

【共 通】

収穫期を迎えている品種は、果実品質と散布した農薬の使用基準（収穫前日数）を確認し、**収穫が可能なものは、速やかに収穫を進めます**。

【りんご】

降雨による表面水を速やかに排水できるよう、**予め排水溝を設けておきます**。

【ぶどう】

降雨による裂果の発生や、土壌が軟弱化しアンカー等が浮き上がることを軽減するため、排水溝を切り、**速やかに排水できるよう対処**します。

◎ 事後対策

【りんご、ぶどう】

- (1) 地盤が緩み、樹が斜めに傾いたり、横になった場合の**立て直しは、できるだけ早く行います**。
ただし、そのまま不用意に引き起こすと、残っていた根も切ることがあるので、倒れた側からスコップで少し掘り下げるなど、注意深く戻します。また、**すぐに起せない場合は、露出した根に土をかけるなどして乾かないようにします**。
- (2) 滞水により枝に付着した**ごみ、果実の泥を排除**します。また、果実に**腐敗等**が確認された場合は**速やかに取り除きます**。
- (3) 園地が冠水した場合や、枝葉や幹に**無数の傷が生じている場合には、疫病などの果実腐敗性病害やふらん病など樹体病害の感染の恐れ**があります。このような場合は、定期防除を早めるか、特別散布で**殺菌剤を全面散布**し、感染を予防します。また、側枝や大きい結果母枝が折れた場合には、**傷口をなめらかに切り、塗布剤を塗布**します。

畜 産

転作田の排水対策の徹底、停電時対応の確認を！

◎ 事前対策

【ほ場・飼料】

- (1) ラップサイレージは、滞水しにくい、**安定した場所**に移動します。

- (2) 紙袋の飼料は、雨が流入しない場所に移動するか、シートで被います。
- (3) 電気柵を設置している場合は、浸水等による紛失、故障等を防ぐため、念のためパワーユニットを撤収します。

【畜舎】

- (1) 畜舎内に雨水が入らないよう施設の点検等を行います。
- (2) 停電に備えて、発電機の準備・燃料の確保を行い、使用方法を確認しておきます。
- (3) 飲水用・洗浄用水は、貯水タンクに確保し、配管の点検を行います。

◎ 事後対策

【ほ場・飼料】

- (1) ほ場が滞水した場合は、速やかに排水に努めます。
- (2) 浸水したラップサイレージは、カビの発生などの変敗のおそれがあるので、給与を控えます。
- (3) とうもろこしが傾倒、倒伏した場合は、無理に引き起こすと折損等のおそれがあるので立ち上がり待ちます。
- (4) 傾倒したとうもろこしの収穫は、倒れた方向に対して斜め後ろから進入するなど茎葉を踏まないように、ハーベスタの速度を遅くして走行します。高刈りして土砂の混入を避けます。
- (5) 倒伏などにより枯れあがりが進んだものは、切断面が粗くなりやすいので、詰込み密度を確保するため十分に踏圧します。不良発酵が懸念される場合は、ギ酸（急速に pH を低下させる）、乳酸菌製剤（乳酸発酵を促進）等の添加剤の使用を検討します。
- (6) 倒伏・折損程度が著しく、登熟がすすまない状態で収穫した場合は、給与前に、硝酸態窒素含量が高くないことを確認します。
- (7) 減収が見込まれ、粗飼料が不足する場合は、9～10月の適期にライ麦やイタリアンライグラスを播種して来春の収穫に努めます。

【畜舎】

- (1) 畜舎内が浸水した場合は、排水を徹底し排泄物や汚れた敷料を除去します。牛床等は、水洗後に、消毒（消石灰や消毒剤の散布）を行います。乾いた敷料の投入、送風・換気による乾燥に努めます。
- (2) 停電になった場合は、通電後に搾乳機器の確認を行います。また、給水・給餌機等の動作も確認します。
- (3) 停電で搾乳が大幅に遅れた場合は、前搾り乳の凝固物（ブツ）の有無を確認します。乳房炎が疑われる場合はクォーターミルカー等で搾り分けするとともに、体調の変化も注視し、異常時は獣医師の診察を受けます。